2013年（平成25年）
第66号
（6月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

地域の方も一緒に絆づくり　～第２回「こころ　ひとつに　フェスティバル」～

５月19日、京都教会において「第２回『こころ　ひとつに』フェスティバルｉｎ青年の日」が開催されました。会員をはじめ地元の方々など約500人が集い、各支部が趣向を凝らした模擬店やバザーなどに、楽しい一日を過ごしていました。

５月第３日曜日は「青年の日」。全国の青年部員が地域社会、世界平和のために行動する日です。フェスティバルの収益金や一食募金として集まった約36万円をユニセフと京都新聞社会福祉事業団に寄付されました。

平和は人類すべての普遍的人権　～庭野平和財団　京都シンポジウム2013～

５月18日、京都市国際交流会館（東山区・蹴上）において庭野平和財団主催が主催して、京都シンポジウム2013が開催されました。宗教者、学識者、市民など130人ほどが参加しました。

第30回庭野平和賞受賞者のグナール・スタルセット師の紹介ＶＴＲが上映されました。子供時代の貧困と民族差別の体験が後の活動につながり、長年にわたり、世界中のあらゆる地域とさまざまな分野において揺るぐことなく職務を遂行されました。常に、意見を異にする者すべてを話し合いの場に導き入れる一方、より大きな合意に至る道を探求してこられました。

続いて、同師は基調講演に立ち、「支え合う安全保障・その全体的アプローチ」について国レベルから個人レベルまで述べ、そのために宗教が果たす役割の重要性を説きました。

このあと、同師に加え、龍谷大学研究フェローの中村尚司氏、関西学院大学の山本俊正教授をパネラーに、野口陽一同財団専務理事が進行役を務め、パネルディスカッションが行われました。

（※スタルセット師については、本月報第６４号参照）

時々刻々

薪を背負いながら本を読んで歩く姿で有名な二宮尊徳像。寸暇を惜しんで勉学に励むものと、かつてはほとんどの小学校の校庭にありました▼しかし、実際にこのような姿で歩いたという事実もなく、交通安全上問題があることから、校舎の建て替えなどを機に、姿を消しつつあるようです▼この二宮尊徳像と重なる光景を見かけることがあります。ランドセルを背負いながらスマホ携帯を見ながら歩いている子供たち▼こちらは、勉学でなくて、ゲームに励んでいるようです。これは危険なことです。先日、東京で携帯に夢中になり、ホームから落ちた子供がいました▼大人世界も同じです。携帯を見ながら歩いて、事故を起こしそうになるケースが多発しています▼自分の身を守るだけでなく、他人に迷惑をかけないためにも、時と場所を考えて行動できるように心掛けたいところです。

今月のことば　～合掌礼拝、讃歎の世界～　　京都教会長　佐藤益弘

先月２３日、世界最高齢の８０歳で、三浦雄一郎氏が、世界最高峰エベレスト（８，８４８ｍ）の登頂に成功されました。心からお祝いを申し上げます。この喜ばしいニュースを耳にし、驚きとともに、とても素晴らしいことであると感動しました。高齢者のみならずあらゆる年齢層の方々に、大きな希望と勇気を与えてくださいました。日本人の、いや人類の誇りと言ってもよいのではないかと思います。

さて、６月は、**「ほめ称える」**とのご法話を会長先生から頂きました。前半のところでは、**「この世は讃歎の世界」**とあります。その初めのところに、「九つほめて一つ叱れ―これでもまだほめ方が足りない」という教育者の森信三先生のお言葉が載っています。なかなかこのような考え方に私はなれません。近づきたいという気持ちはあるものの、十ある内、一つや二つ、あるいは三つぐらい叱るのは許容範囲ではないかと勝手に思いがちです。ところが、会長先生は、「良いところをお互いに称えあう『ほめる文化』の醸成が、組織の成長につながる重要なテーマであるといわれています」、「ほめられる―つまり人から認められ、肯定されてこそ人は前向きになれ、より持ち味が発揮できるのでしょう」と述べられています。

立正佼成会の所依の経典であります『妙法蓮華経』には、この世界は妙なる華でいっぱいである、ということが説かれています。よって、**「法華経が讃歎の教え」**であると会長先生が教えてくださっています。私ども法華経を信仰する者も、日常生活において、人をほめ称える生き方ができるということが教えに叶った相応しいことと思います。

先日、亀岡の会員宅で茶会が開かれ、無作法な私ですがお招きを受け、出させて頂きました。その中で、茶道の先生から、お茶、お菓子、器、茶道具、掛け軸、お花などの一つ一つについて讃歎することを教えて頂きました。単に、ほめ称えるというのではなく、催される亭主の方をはじめ裏方の皆さんが、時間を掛けて準備をされたことを労い、讃歎することの大切さを学びました。此のたびの茶道の体験を通して、ほめ称えることの難しさを味わいました。平生から、物事をありのままに観て、感謝で受けとめ、ほめ称えることを繰り返し実践することで、身につくのだと思いました。

会長法話の後半は、**「讃歎し、磨きあう」**というお話です。その中で、**「ほめ言葉を探す前に合掌礼拝の心と姿勢を忘れないことです」**と教えてくださっています。法華経を信じ、行ずる者として心すべきことと思います。このことを軽んじると、自分をほめる人に対して合掌礼拝できても、自分を謗る人に対しては、合掌礼拝できないということになりかねません。いずれの縁が身の周りに起きたとしても、合掌礼拝できる心づくりがなされていれば、どんな状況場面でも、どんな人に出会っても感謝できる、讃歎できるに違いないということに気づかせて頂きました。

常不軽菩薩のように、私自身、常に合掌礼拝、讃歎する生き方を確立して参りたいと心に期した次第です。

修験道に学ぶ「神と仏と日本のこころ」　第１０回奈良県宗教者フォーラム

５月１４日、奈良県宗教フォーラム実行委員会が主催する「第１０回奈良県宗教フォーラム」が吉野山ふるさとセンターにおいて開催されました。同フォーラムでは、現代社会が忘れている日本のこころ、信仰を取り戻すことを願い、奈良に伝わる宗教から学び深めてきました。今年は、３回にわたる『修験道』からの学びの最終回として実施されました。

フォーラムに先立ち、金峯山（きんぷさん）蔵王堂での「平和祈願祭」で、参加者全員で平和への祈りメッセージを唱和し、修験者による大護摩供修が行われました。

フォーラムでは、聖護院執事長・中村覚祐氏、春日大社権宮司・岡本彰夫氏、宗教学者・正木晃氏をパネリストに、金峯山寺執行長・田中利典師がコーディネーターとして、各々立場から修験の世界から日本人の宗教観について述べられました。

日々の生活の心がけを学ぶ　～第39回かめおかこころ塾～

５月11日、ガレリアかめおかにおいて第39回かめおか・こころ塾が開催され、臨済宗妙心寺派東光寺先住職・かめおか宗教懇話会会長の宝積玄承氏が「今が　いちばん」と題して講演を行いました。

宝積氏は講演で、現代の人間は呼吸が乱れており、座禅の姿勢で呼吸と心を整えることが大切であると述べ、参加者はその実践を行ないました。そして、宗教協力の歩みや仏教の教えを分かり易く説明しました。

仏教とは「諸悪莫作　衆善奉行（しょあくまくさ　しゅぜんぶぎょう）」であり、理屈ではなく実践が大切であって、乱れる行いは呼吸を整えることが大切であると述べました。

さらに、今日を充実して生きるための「あすおもう」という標語を紹介された。

・ありがとう　（感謝のこころ）
・すみません　（謙虚なこころ）
・おかげさま　（知足のこころ）
・もったいない（清貧のこころ）
・うれしいな　（歓喜のこころ）

参加者はこの標語を日頃の生活で活かしていく大切さを学びました。

比叡山春季仏教講座に学ぶ

５月11日、比叡山延暦寺会館で「比叡山春季講座」が開催されました。第一講は深大寺第八十八世住職の張堂完俊師の「武蔵野の水と緑とそば」、第二講は同志社大学神学部元教授の本井康博氏の「ハンサムな生き方、八重の桜に学ぶ」、第三講は落語家で天台宗キャンペーンガールの露の団姫（つゆのまるこ）さんの「落語で語ろう！一隅を照らす」の講演がありました。

落語家の露の団姫さんは、高校生の頃から法華経に興味を持ち、自ら天台宗の門を叩き出家されました。自作の仏教落語は大変分かりやすく、面白おかしく仏教を学べ、素晴らしいものでした。

絆の大切さを学ぶ　～宗教連盟公開講座～

５月24日、日本ナザレン教団・上京教会において京都府宗教連盟主催の公開講座が開催されました。京都いのちの電話・事務局長の平田真貴子先生が「いのちの絆をささえ　守るために」と題して講演しました。

いのちの電話の始まりから、豊富な体験を話されました。京都では毎日70件の電話がかかってくるといい、名前もつげず見ず知らずの相手に、こうした電話をしてくる理由は、回りに相談相手がいないからだと述べられました。

そして、「人間関係が緩むと自殺が増える」ので、悩み苦しむ人に寄り添い傾聴することの大切さを語られました。

庭野日敬の著書に学ぶ　「人生、心がけ」より

****

◆愛されるお年寄りになるために

村の老人がみんな長生きで「長寿村」と呼ばれる村があります。調査してみると、その村のお年寄りは、いつも家族のため、子供や孫のため、ご近所のために何か自分が役に立てることはないだろうか、と考えて毎日を過ごしている人が多かったといいます。

どんなお年寄りになるか、その決め手は何なのかというと、「周りの者は年寄りの自分にこうしてくれて当然だ」と、いつも要求を突きつけているか、何か人さまのお役に立ちたいと考えるか、そこの違いなのです。

そう考えていくと、年をとればとるほど、積極的な考え方が大切になることがわかります。豊かな老後を生きるといういちばんの鍵が積極的な考え方にあることがわかってくるのです。

視点を変えれば、老後とはまさに熟年期で、人生最高の豊穣（ほうじょう）のときです。その豊かな実りを楽しまなくては、こんなもったいないことはありません。たあいもない愚痴で自分を貧しくし、みじめにするほど悲しいことはありません。

****

本書が発行された18年前に比べ、少子高齢化が進み「お年寄り」が増えています。中でも団塊の世代の人たちが定年を迎え、ますます高齢者が多くなってきています。年をとると、身体がいうことがきかなくなる、前にできたことができなくなる、という声をよく耳にします。

老後を豊かにするために、周りの人のために役立てる（菩薩行）ように、前向きに考えて生活するよう心がけたいものです。

庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

《すべてのものは移ろいゆく》

「すべてのものごとは変化し、決して同じ状態にとどまらない」「すべての存在は他との相互依存関係のもとに支え合っている」というのがこの世の真実の姿であることは、何人も否定できない事実です。

言葉をかえていえば、すべてのものごとは縁によって生じ、縁によって保たれ、縁によって変化していくのです。この諸行無常、諸法無我の真理だけが不変に存在するものであり、この諸行無常と諸法無我の真理を忘れた時、そこに苦悩が生じるのです。

逆に、この真理をしっかりと踏まえて生きることができれば、そこに涅槃寂静の境地が生まれます。だからこそ、私たちは一つ一つの出会いという縁を大切にし、その教えを説き続けてきたのです。

さらに言いかえれば、こういうことになるでしょう。仏教では、この世に絶対に変化しない固定的、実体的なものはないとします。つまり、一切は空であるとするのですが、それだけに固執すると虚無主義に陥りかねません。空にとらわれすぎると、目の前に実際に存在しているものまで空だと片付けてしまう、いわゆる「空病」と呼ばれる病気にかかって、地に足のつかない生活になってしまう恐れがあります。

例えば、私の目の前に極上の紅茶茶碗が置かれているとします。現実に茶碗がそこに存在しているのはまぎれもない事実であって、それさえも空であり、何もないのだと片付けるわけにはいかないのです。

しかし、その茶碗は因縁によって生起しているのですから、その因縁が和合し一定の条件が整っている限りは茶碗は存在していますが、もし地震や私の不注意によってその一定条件がこわれると、茶碗はたちまち茶碗でなくなり、単なる陶器の破片と化してしまいます。現実に私の眼前にある紅茶茶碗も、存在しうる一定条件が整っている間だけ仮に存在しているにすぎないと見る見方、それが一切の存在を「仮」と見る見方なのです。

その見方が出来るようになると、仮なるものに執着する愚かさに気付き、過度なとらわれ、執着を離れることが出来るようになります。空と仮をわきまえてバランスよく生きること、つまり「中」の大切さがわかってくるのです。その自制を持った生活をめざせば、おのずと腹八分目というか、ほどほどの生き方が可能になり、いわゆる味な人生、少欲知足の生き方が可能になると思うのです。

（次回で最後です）

第２３回福祉バザールを実施（宇治明社）

４月28日に宇治明社主催の第23回福祉バザールが宇治市総合福祉会館で行われました。

天気にも恵まれ、一般市民も含み多くの方々が足を運んでくださいました。

バザー用の品物のほかにも焼きそば、カレーライス、唐揚げ、串カツ、コロッケ、お餅等の模擬店での販売もあり、今回の収益金 392,637 円は宇治市福祉協議会「ふれあい基金」に寄付しました。

藤森神社で清掃奉仕（伏見明社）

４月29日、伏見明るい社会づくり運動の会（伏見明社）は藤森神社境内の清掃奉仕を行いました。

歴史ある藤森神社

当日は、地域住民の協力もあり、41 名が参加しました。

さらに、５月５日に同神社で行われる駈馬（かけうま）神事に併せ、早朝に 16 名が参加して清掃奉仕を実施しました。

駈馬神事

渉外部からのお知らせ

●６～７月の主要行事予定

６月　１日	朔日参り（佼成研修）	8：45～
６月　４日	開祖さまご命日（説法会）	9：00～
６月１０日	脇祖さまご命日（説法会）	9：00～
６月１５日	釈迦牟尼仏ご命日（説法会）	9：00～
７月　１日	朔日参り（佼成研修）	9：00～
７月　４日	開祖さまご命日（説法会）	9：00～
７月１０日	脇祖さまご命日（説法会）	9：00～
７月１５日	盂蘭盆会	9：00～

●メッセージ

先日、大阪のマンションの一室で「最後におなかいっぱい食べさせられなくてごめんね」というメモが残った状態で餓死した母子がありました。電気やガスが止まっていて、冷蔵庫はなく、食べ物もほとんど残っていなかったとのこと。いったい何があったんだろうと胸が痛みます。ご近所付き合いはなかったのだろうか、身内はいなかったのか…、分かりません。まずは自分自身の身の回りの心配行が大切だと感じます。